

会議録（要点筆記）

会議名	令和7年度第1回米原市総合教育会議
開催日時	令和7年11月18日（月） 15時30分 ～ 16時30分
開催場所	米原市役所山東支所 2AB会議室
出席者および欠席者	<p><b>【出席者】</b>            （構成員）            角田 航也 市長、一ノ宮 賢了 教育長、上橋 文彰 教育長職務代理者、本庄 通子 委員、法戸 繁利 委員、北川 真依子 委員            （事務局）            川瀬政策推進部長、口分田教育部長、高木教育部理事、宮野くらし支援部長、村口政策推進課長、馬場教育総務課長、北川学校教育課長、平山生涯学習課長、花部学校給食課長、山田子育て支援課長、安田保育幼稚園課長、萬木政策推進課長補佐、ほか担当職員2人</p> <p><b>【欠席者】</b> 井口 英知 委員</p>
議題	<p>米原市教育政策の基本的な考え方について（教育大綱の位置付け、考え方）</p> <p>（1）米原市教育大綱について</p> <p>（2）第4期米原市教育振興基本計画について</p> <p>（3）米原市教育振興基本計画（目標指標）</p>
結論	米原市教育大綱については、第3期と同様、第4期についても教育振興基本計画をもって教育大綱に代えることとする。
審議経過	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 市長あいさつ</b></p> <p><b>3 協議事項</b>  <b>米原市教育政策の基本的な考え方について（教育大綱の位置付け、考え方）</b></p> <p>（1）米原市教育大綱について            &lt;資料1&gt;に基づき事務局より説明&gt;</p> <p>教育長            ・教育大綱と教育振興基本計画の関係性としては、現状と同じ形で継続していくということで良いと考える。</p> <p>市長            ・米原市教育大綱については、第3期と同様、第4期についても教育振興基本計画をもって教育大綱に代えることとする。</p> <p>（2）第4期米原市教育振興基本計画について</p> <p>（3）米原市教育振興基本計画（目標指標）            &lt;資料2&gt;、&lt;資料3&gt;に基づき事務局より説明&gt;</p> <p>教育長            ・子どもや保護者、地域の人、教育に携わる教員など幅広く現状把握のアンケートをとる中で、今の状況等を把握することや、それぞれの地域の特色等も踏まえ</p>

市長	<p>ながら、これからの教育をどう進めていくか把握できるようなアンケート項目に設定することが大事だと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3の指標について、令和2年の当初値から令和6年において数値が下回っている項目が26あるとのことだが、原因としてコロナ禍の影響もあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響も否めないが、令和2年の時点もコロナ最盛期前の数値となっている。一旦下がって回復しているような指標もあり、項目によってケースバイケースである。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て・子育て支援の充実」や「子育てしやすいまちだと思える市民の割合」についての数値が若干下がっているが、これも一旦下がって回復しつつあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この指標については、2年に1回行っている市民意識調査からの数値となるため、詳細な推移については読み取れない部分がある。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査に関する指標について、県平均を上回っている項目がほとんどであるが、全国平均と比べるとどのぐらいの位置にあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な状況の学校がある中で平均を出しているため、あくまで統計上の数値だが、滋賀県は一般的に全国平均よりも若干低くなっている。米原市においては、小学校でも県平均より低くなっているが、中学校に上がるにつれて県の中でも上がってくるというのが毎年の大まかな傾向となっている。ただし、子どもの数が少なく、子どもが1人受けたり受けなかったりで、年によって数値が変動するため、あくまでも今までの傾向である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校支援がまだまだ行き届いていない点が課題だと聞いている。今ある多世代交流の居場所や子ども食堂など、地域で取組を行っているところともっと連携し、子どもたちが身近で気楽に行けるような環境が整うと良い。</li> <li>・学校訪問を通じて、米原市の学校は全体的に設備も良く、先生も子どもたちも落ち着いていて良い環境だと感じた。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校は、全国的にも毎年増えているような状況であるが、学校へ行くだけが全てではないという考え方もある。それよりも、どことも関わりのない子どもの存在が問題である。学校には行っていないがフリースクールには通っているなど、つながりがある子どもたちはまだ良い。引きこもりの状態で誰とも関わりのないような子どもたちの数を減らしていくような指標の方が重要だと感じる。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その数値を出す手段はあるか。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で把握しているため、数値を出すことは可能。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツボランティアの参加者数が3分の1程度に減少しているが、何か原因があるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響が大きい。イベント自体が無くなり数値が一旦落ち込んだ。現在は若干戻りつつあるが、コロナ禍以前と比べると明らかに減っている状況である。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国スポには多くのボランティアが参加して下さった。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国スポでボランティア協力していただいた方は登録させていただいている。今後も協力していただけるような仕組みを考えていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先ほどの話にもあったが、不登校児童生徒数については、単なる人数ではなく、どこにも関わりのない子どもの数を減らしていくという指標の方が分かりやすいと感じる。</li> <li>・指標について、「〇〇に関する研修の回数」といった指標があるが、例えば人権に関する課題は数多くある中で、個別の課題を一つ挙げて、それに関する研修と設定すると、研修回数にも限りがある中で、たまたま実施できなければ評価が悪くなり、実施すれば評価が良くなるという形になってしまう。そういった個別の細かい研修内容を項目に挙げない方が良いのではないか。</li> <li>・例えば、「児童虐待防止に関する研修」という指標があるが、「子どもの権利に関する研修」といった表現にすると、児童虐待やヤングケアラーに関することもすべて拾えるのではないかと感じた。毎回継続して使える指標に見直した方が良いと思う箇所もある。</li> </ul>
市長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指標は毎回変えることはできるのか。</li> <li>・計画策定時に追加や修正を行う予定である。今いただいた意見も参考にしながら設定していきたい。</li> </ul>
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米原市の中でヤングケアラーといわれる人の人数は把握できているのか。</li> <li>・手元に把握している資料がないため、確認させていただく。</li> </ul>
市長 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が自覚していない可能性もある。</li> <li>・難しいと思うが、指標として取り上げているのであれば、大まかでも何らかの形で把握する必要があるのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スポーツ協会の加盟人数」の指標については、年々減ってきていると思う。年齢や体力的な要因もあり、それは文化協会にも共通している課題である。PTAや老人会の解散など、色々な団体が解散している中で、今後、数を増やすといった指標を入れることは難しいのではないかと考える。</li> <li>・一方で、出前講座では地域に出向き軽スポーツを指導されており、各地域でも参加人数が増えてきていることは、とても努力されていると感じる。そういった指標を使ってもいいのではないか。</li> <li>・文化協会では、学びあいステーションの講座からサークル活動になった数が非常に増えている。生涯続けたいと思える魅力のある講座を開いてくださっているので、そういった部分も評価できると良い。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ協会の加盟人数については、全体的にスポーツ人口が減っている中で、どの競技・団体においても、以前と比べるとかなり減っている状況である。これを増やそうというのは現実的には厳しいため、できるだけ現状を維持していただけるような形で進めたい。</li> <li>・出前講座については、特に今年度は国スポ・障スポの関係もあったと思うが、かなり多くの団体から依頼があり、スポーツ推進員に実施していただいた。せっかく</li> </ul>

<p>市長</p>	<p>機運が高まっているため、なんとか今後も維持していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が減っていくので、スポーツ人口も同じように減っていくことは仕方がないが、運動する回数を増やすなど、なるべく気軽にできるものを広げていくということも一つだと考える。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体に入らない人が増えている中で、自由に参加してもらえそうなイベントを今後やっていきたいという思いがあり、その一つがジョイスポパークのイメージである。今までは伊吹地域のみで開催してきたが、今後は他の地域でも行い、気軽にいつでも参加できるような内容にしていきたい。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動という観点で見ると、伊吹山について大変な状況で危険な箇所はあると思うが、今登れるところまででもなんとかならないかと感じている。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道自体の修復が完了しても、周辺の岩肌が荒れているため岩が落ちてくる可能性がある。登山者の安全が保てないということで、まだしばらくは登山禁止が続きそうである。なるべく早く登山を楽しんでいただけるようにしていきたい。</li> </ul>
<p>市長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米原市の人口減少が進行している。米原市が誕生した20年前は、4万2,000人以上いた人口が、今は3万7,000人を切っており、20年間で約5,000人減少した。1年で250人ずつ少なくなっている状況である。特に子どもの数が減っており、令和6年度の出生総数は167人で、10年程前は300人は超えていた。</li> </ul> <p>急激に、特に昨年はがくっと下がっているため、心配している。このままの勢いで子どもが減っていくと一つの学校の児童数・生徒数が少なくなってしまうことも問題になる。地域に子どもがいなくなることはとても寂しいことであり、これからまちをだれが支えていくのか、長い目で見てまちの存亡にも関わってくるテーマとなる。子どもの数を急激に増やすのは難しいにしても、年間の出生数を200人、できれば250人ぐらいまで戻していきたい。一つは、今いる方がなるべく米原に住み続けていただくこと、大学や就職で一旦市外に出ても子育ては米原でいたいという方を増やしたい。もう一つは、米原に縁もゆかりもない方でも、米原に魅力を感じて移住してきてくれる人を1世帯でも増やしたい。</p> <p>その魅力の一つとして教育を打ち出していきたい。魅力のある学校や、学校に限らず生涯学習という点でも図書館や公民館講座、スポーツイベントなどが充実しており、一生楽しみながら学び生活していけることを米原市の売りの一つにしたいと考えている。これから教育振興基本計画を作っていくが、中身を充実させ、「こんな面白い教育、魅力のある学校があるなら米原市に住みたい」「戻ってきたい」と思えるような魅力のある市にしていきたい。</p> <p>色んな切り口があるが、既にやっただいている道徳教育の充実や英語教育、ICT教育など、米原は先進的であり、都市部でなくても高度な知識が得られることや、ふるさとへの愛着を持ってもらうことも大きなきっかけになると感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育移住という言葉がある。学校を見せてもらう中で、各学校が特色ある教育をしており、あとは外に向けてしっかりPRをしていくことが重要だと感じた。モデル校やPRに向けた学校で取組をしっかりと発信することや、シビックプライドとも似た</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育移住という言葉がある。学校を見せてもらう中で、各学校が特色ある教育をしており、あとは外に向けてしっかりPRをしていくことが重要だと感じた。モデル校やPRに向けた学校で取組をしっかりと発信することや、シビックプライドとも似た</li> </ul>

教育長	<p>言葉でESD教育といった、持続可能な社会の担い手を育む教育というものもある。今既に行っている学校の取組でも十分だと思うが、シビックプライドとESD教育をもう少し打ち出して市外にアピールする取組があると教育移住に繋がるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住みやすい米原ということをよく言われるが、自然や歴史、文化というものは米原市の誇りであり、地域の人と一緒に地域の良さ知るとような取組も学校教育に取り入れている。</li> <li>・できるだけ小さいころから地域や学校への思いを持ち、関わってくれる大人と触れ合いながら、地域の良さを知ること、一旦は市外に出てしまっても帰ってくるような子どもたちを育てるのが一つ方向性としてある。もう一つの方向性は、米原市の人口だけが減っているわけではないので人の取り合いのような形になってしまい難しい面もあるが、米原市の良さをアピールしてここに住みたいと思ってもらえる取組を福祉・教育・観光・商工など行政全般で取り組んでいかなければならない。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致は頑張っ取り組んでいきたい。米原市の場合は、同じ規模の小さなまちと比べてメリットとして新幹線駅がある。新幹線に乗れば名古屋でも京都でも、それこそ海外へも繋がるため、仕事の選択肢が広がるということも活かしていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧近江町や坂田小学校周辺は、働く場所は変わっていないが住宅建設が進み人口が増加している。一方、息長学区は人が減っている。住宅開発が進めば人は集まるが、息長学区では土地が手に入らないという問題もある。場所さえあれば住みたいという声もあるので、住宅が建ちやすいようにすればどうか。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・息長学区だけでなく、山東・伊吹地域も含め、住んでいただけるようにしていきたい。</li> </ul>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校配置を考えた際、片方では子どもの数が増えて増築が必要であり、片方では子どもの数が減って教室が余っているという状況は、行政効率の観点からも課題がある。何とかバランスよく住んでいただけるようにしていきたい。</li> </ul>
教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地開発やJR沿線の開発も多いため、山東・伊吹の方から便利な地域へ流れるという傾向は避けられないと思う。そういった中、小規模の学校も増えてきている。今後、子どもたちの学びの保証を中心に考えたときに、学校の在り方をどうするかは、検討すべき大きな課題である。</li> </ul>
市長 教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、複式学級になる学校も出てくるという状況である。</li> <li>・伊吹小学校の2年生・3年生は、来年から基準としては複式になる。</li> </ul> <p>県の支援を受け実際に複式になるわけではないが、基準的には複式の人数になってくる。柏原小学校でも今後の人数を見ていると令和13年あたりに複式の基準になってくるため、そのあたりが判断基準になるかと思う。</p>
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・違う学年で交流が生まれるという考えもあるかとは思いますが、今でも1学年1クラスしかない学校もある。</li> </ul>

教育長	・半分以上の学校が1学年1クラスの状況である。
市長	・例えば小学1年生から中学3年生までクラス替えがなく、同じメンバーで過ごす場合もある。少人数で手厚く1人1人見てもらえるといったメリットもあるが、部活動の制限や、人間関係が長期間固定化されるというデメリットもある。
委員	・学年ごとの学びの違いなど難しい面はあるが、大人数で学ぶということは、活気も出て良いことだと考える。 ・伊吹小学校の支援学級では、対一の教室が4クラスもあったことが気になった。通常学級の子どもたちと一緒に学ぶ機会が増えると良い。
教育長	・障害の種別によって学級が分かれるため、該当の子どもが1人しかいなくても学級として成立し、4クラスあるという状況となっている。
市長	・アンケート等で今後の学校の在り方や適正規模について意見を聞く機会があるかもしれないが、そういった結果を踏まえて、総合教育会議でも議論したいと思う。
教育長	・学校訪問をしていただき、規模の大小、様々な学校を見ていただいたがいかがだったか。
委員	・先ほど学校の規模の話が出たが、個人的な思いとして、学校教育の肝は、学力向上だけではなく、集団づくりにあると考える。多様な子どもたちが集まり、その中でお互いに学び合ったり支え合ったりつながりを強めることが、自己肯定感や地域への愛情を育てたりするのだと思う。ところが、少人数となると人間関係が固定化し、深まりや変化するチャンスが少なくなるため、クラス替えがある方が適正だと考える。 地域から学校が無くなる寂しさや地域の方から賛同を得ることが難しいかもしれないが、子どもにとっては、多様な人間関係の中で学び成長していく機会となるため、適正規模の学校が良いと考える。
委員	・学校の学習については、人数が少ない方が指導もきめ細かくなり良い面もあるが、社会人になった時のことを考えると、小・中学校時代に多くの同世代と関わるのが非常に重要であり、将来的には合併が必要になってくるのではないかと考える。その学校を卒業した人にとっては学校が無くなることは非常に寂しいことではあるが、将来、社会を担っていく子どもたちを優先に考えると個人的には統合して生徒数の多い学校になる方がふさわしいのではないかと考える。
委員	・各学校とも特色のある取組を行っている。子ども服のリニューアル活動をする中で、受け渡しがしやすいよう体操服の名前刺繍をなくしてもいいのではないかと思う。 ・クマの出没が活発な時期は、安全のためスクールバス利用したいという声があるため、検討してほしい。
委員	・教科によって少人数の授業を取り入れたり、専科教員、サポーターなど、非常にきめ細やかな指導がなされている。また、地域と連携したコミュニティスクール活動によりそれぞれ特色のある学校づくりがなされている。学校は地域の活性化拠点でもあるため、統廃合には地域の思いもあり難しい面があると考え。少人数のメリットデメリットを踏まえ、今後の課題だと感じている。

事務局	<b>4 その他</b> 次回会議は、来年の4月、5月頃に開催する。
-----	---------------------------------------

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 傍聴者： 0人 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： ) <input type="checkbox"/> 非開示
全部記録の有無	会議の全部記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
担当課	政策推進部 政策推進課